2026 年 2 月 24 日

報道関係者各位

東京マラソン2026
本学沿道救護チームが234人体制で大会運営をサポート

開催日:2026 年 3 月 1 日(日)　主催:一般財団法人東京マラソン財団

国士舘大学は、2026年3月1日（日）に開催される「東京マラソン2026（主催：一般財団法人東京マラソン財団)」において「沿道救護チーム」（モバイル AED 隊・BLS 隊）の派遣を行い、大会運営をサポートします。この活動は2007年の第1回大会から毎年行っており、救急救命士を養成する体育学部スポーツ医科学科の学生、救急救命士の資格を有する同学科および大学院の卒業生、教職員など総勢234人が参加し、大会の救急体制をサポートします。

◆活動の主旨、目的

国士舘大学は、世のため人のために尽くせる人材「国士」の養成を目指し、「活学」を講ずる道場として 1917 年（大正 6 年）に創立しました。社会貢献すなわち、「他への献身」「真心をもって人に尽くすこと」という考え方に基づく活動の一つとして、東京マラソンにおいてボランティア活動を行っています。

◆沿道救護チーム（モバイル AED 隊・BLS 隊）の紹介

沿道救護チームは、主に国士舘大学体育学部スポーツ医科学科の学生、同学科および大学院救急システム研究科の卒業生、教職員らで編成されています。チームは、AED を装備した救急救命士が自転車でコースを巡回する「モバイル AED 隊」と、AED を携帯した学生が定点待機してランナーが倒れた場合には走って現場に向かう「BLS 隊」で構成しています。モバイル AED 隊の役割 は「応急処置」と「トリアージ（傷病の重症度・緊急度を判断すること)」です。GPS で常に全隊員のポジションを把握することにより、患者発生の連絡から出動までの時間短縮が可能となるとともに、定点配置しているBLS 隊と連携することで、綿密かつ安全な体制を構築して大会をサポートしています。これまでに発生した心停止 12 件では、いずれも蘇生に成功し全員が社会復帰を果たしています。

◆当日の沿道救護体制

救護指示センター内に設置されている「モバイル・BLS 隊統括」に本学教員 11 人（医師および救急救命士）が配置されます。救護専用位置情報アプリとして、今大会では公益財団法人日本 AED 財団が開発した救命スポーツアプリ「Red Seat」を使用してモバイル隊・BLS 隊とリアルタイムに連携を取りながら救護活動を統括します。傷病者の情報を把握し、救急車要請等の対応の判断や安全な搬送を行うための指示・助言を行うことにより、メディカルコントロール（医療の質の担保）を行います。本アプリを開発した日本 AED 財団にはスポーツ部会の委員として、本学体育学部スポーツ医科学科の田中秀治教授、喜熨斗智也准教授、坂梨秀地助教が活動しています。

【救護チーム構成】

沿道救護本部：11 人　　モバイル隊：24 隊 48 人　　BLS 隊：40 隊 80 人　　救護所ボランティア：95 人

【人員構成】

医師：4 人　　救急救命士・看護師：55 人　　学生：175 人　　計 234 人

◆Zoom を用いて音声と映像で現場を把握

本大会では、公益財団法人日本 AED 財団が開発した救命スポーツアプリ「Red Seat」により救護本部から隊員の位置情報を把握できるほか、Zoom の音声通話とカメラ機能を活用して、現場映像を本部で確認しながら的確な指示が出せる環境を整えています。今後は実証実験の成果を報告し、他のイベント救護での活用・普及を視野に研究を進めています。

◆喜熨斗智也体育学部准教授（専門＝救急医学）コメント

ランナーが心停止に陥った場合、救命率は 1 分間に 7～10%低下していきます。まさに 1 分 1 秒を争います。倒れたランナーの元に救護チームがいち早く駆けつけるため、様々な ICT を駆使して、効果的なデジタルトランスフォーメーションの取り組みに挑戦しています。東京マラソンは世界一安全なマラソン大会を目指し、様々な団体が協力して毎年救護体制の改善に取り組み、その結果、ランナーの突然の心停止に対しては救命率 100%を達成しています。

◆その他活動実績

本学は、東京マラソン以外にも年間約 70 件のイベント救護を行っています。イベント救護は、市民マラソン、トレイルラン、少年サッカー大会、自転車レース等の救護活動の総称です。より質の高い救護を実践するため、モバイル AED 隊、救急救命士の適正配置、医師の指示、熱中症に対するアイスバスの導入など、本学独自の救護体制を構築しています。

◆東京 2025 世界陸上に観客救護ボランティアとして参加

9 月 13 日～21 日に東京・国立競技場で開催された「東京 2025 世界陸上」において、本学の体育学部スポーツ医科学科および大学院救急システム研究科の学生、教職員など総勢 67 人が、観客救護ボランティアとして活動を行いました。心肺蘇生や AED を使用した対応、ファーストレスポンダーとしての意識レベル評価や発生状況聴取といった初期対応など、さまざまな救護活動を想定し、総入場者数 61 万人を超えた国際大会の円滑な運営と観客の安全確保に貢献しました。また、これらの活動が大会運営に貢献したとして、公益財団法人東京 2025 世界陸上財団より感謝状を受贈しました。

◆東京マラソンEXPO 2026への出展＜取材可能＞

2月26日（木）～2月28日（土）に開催される「東京マラソンEXPO 2026」で本学のブースを出展し、スポーツ医科学科の学生がリトルアンQCPRを用いた心肺蘇生法をレクチャーします。（写真は昨年の様子）

◆東京マラソン終了後のミーティング＜取材可能＞

モバイル AED 隊（救急救命士の卒業生等）のミーティングをレース終了後に行います。

日時：3 月 1 日（日）16：40～17：20 頃
※詳細は取材希望社に別途お知らせします

◆参考（本学ホームページなど）

東京マラソン2025で本学学生らが大会をサポートしました（2025年3月10日掲載）

https://www.kokushikan.ac.jp/news/002590.html

東京マラソン2026公式ウェブサイト インタビューリレー（2025年12月26日掲載）※喜熨斗准教授が出演

https://interview-relay.marathon.tokyo/2026/interview/2025/12/26/508/

◆本プレスリリースに関するお問い合わせ
学校法人国士舘 理事長室広報課（担当：松田、舟川）
TEL: 03-5481-3115　FAX: 03-5481-5477　E-mail:kouhou@kokushikan.ac.jp
※国士舘への取材ご希望の場合は 2 月 27 日（金）までにお問い合わせください。